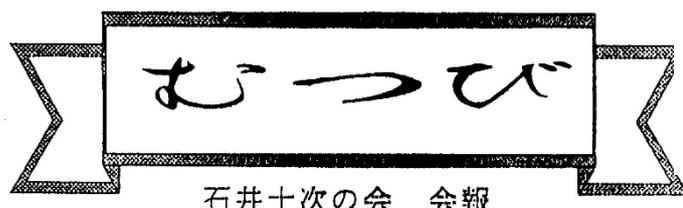


2024年
(令和6年)
9月12日



324号

石井十次の会 会報

石井十次資料館等を訪問して想う

(株) 宮崎銀行 専務取締役 河内 克典

数年前、中学校時代の恩師に「石井十次の会」を紹介していただきました。それ以来、「むっぴ」や「ゆうあい通信」を通して石井十次の考え方や取り組みなどに触れさせていただいています。もちろん石井十次のごことは郷土の偉人として知っておりましたが、深く知っていたかといえば・・・。

先日、石井十次資料館を初めて訪問しました。当日はたまたま資料館が休みの日でしたが、事務所の方に尋ねたところ、快く開けてくださいました。程よい距離感で案内までしていただき、「資料館」、「研修館」、「静養館」と気持ちよく見学することができました。

高い天井、静寂の先にある見事なステンドグラスから光が差し込む「資料館」。そこに展示された膨大な資料や写真で十次の足跡をたどりながら、その具体的な取り組みを目にして、改めてその偉大さを思い知らされました。

十次が岡山で児童救済事業に取り組んでいた当時、収容児童は一番多いときには1200人にもなっていたとの記録。地震や冷害による凶作などで苦しむ児童救済としてこれほどの人数を支えることは、資金面など現実的な課題を含めその苦労は計り知れないものと想像できます。当時の時代背景から個人の善意や寄付に頼らざるを得ない中で、財界などの名だたる人々が賛同して支えていたのも、十次の強い信念とその人柄があったからこそと思います。展示資料の中に、先日20年ぶりに発行された新紙幣でも話題となった渋沢栄一の名前がありました。同時代に生きた十次と渋沢のつながりも初めて知ったことでした。

「研修館」に展示されている児島虎次郎の絵の数々。その優しいタッチは見学者としての気持ちをほぐしてくれました。これほどの作品がすぐ身近に大切に保管展示されていることのありがたさ。そして、私が社会人となって最初に配属された支店の懇親旅行で倉敷を訪れ、大原美術館を見学したことを思い出しました。当時はこの美術館の設立者大原孫三郎と画家児島虎次郎、十次のつながりはまったく知らず、モネやマティスの絵を前にしてただただ感動していました。あれから40年過ぎ、十次をたどっていく中で思い出がつながったことに不思議な感じがしています。

今回、資料館等を訪問して強く思ったことは、人との出会いの大切さとありがたさでした。児童福祉、社会福祉において十次の果たした偉大な功績をしっかりと認識できたことは当然のこととして、十次と大原や児島との出会いとその後の関係性が改めて強く印象に残りました。そして十次の考え方、取り組みが受け継がれ、今現在も福祉事業としてしっかり持続されていることが何よりも素晴らしいことだと考えます。

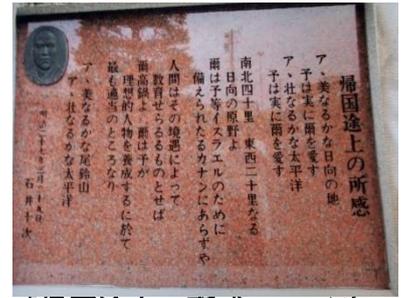
自分自身のことと言えば、職業柄、いろいろな業種の方々とお会いすることができてきたこと、若い時から外部の組織に出向する機会を与えてもらってきたこと、そしてそれぞれの場所で大事なつながりが得られたことは、まさにありがたいことと改めて思うところです。また、同じ学び舎、寮で過ごした同級生たちとの絆も心のよりどころになっています。先日、地元の大先輩と久しぶりにゆっくりとお話する機会がありました。「宮崎はまだまだ伸びしろがある」ということで大いに盛り上がりました。人と人とのつながりを大事にしながら、自分なりに地元のために何ができるかを考え続けていかねばと思ったところでした。

今回のきっかけをいただいた恩師とのお付き合いも半世紀となりました。節目ふしめで大切な教えをもらいながらここまで来ました。人との出会いそのものに今の自分が支えられていると改めて感謝の念を強くした一日でした。

高鍋町美術館を訪れて

宮崎県で一番面積の小さな自治体、高鍋町にある高鍋町美術館は、1999年11月3日文化の日に開館した。

美術館前には名君の誉れ高い秋月種茂公（第7代高鍋藩主）と、弟の上杉鷹山公（第9代米沢藩主）の像が並んで立っている。近くには、石井十次生誕150年を偲び建立された「帰国途上の所感」の石碑もある。



「帰国途上の所感」の石碑

高鍋町美術館の基本方針は

- ① 西都・児湯郡唯一の公立美術館として、優れた美術品を収集し、大切に後世へ伝えていく。
- ② 石井十次の生まれた町、日向新しき村の創設された地域としての特性を生かす。
- ③ 多様性を受け入れ、交流を生み出す。（子どもが訪れ、芸術家の卵が初めて出品し、障がいのある方もためらいなく来館できる）と謳っている。

只今、高鍋町美術館では「特別展 開館25周年記念フォーエバー現代美術館コレクション 草間彌生展」が開催されている。（令和6年7月13日（土）～9月23日（月・祝））

草間彌生の作品は、香川県の直島の野外彫刻（南瓜）や水玉模様の作品が有名だが、本展ではフォーエバー現代美術館が所蔵するコレクションの中から、初期から近年に至るまでの油絵画、水彩画、アクリル画、版画等の約30点が展示されている。

「ドッツ・オブセッション、水玉で幸福いっぱい」や、「A PUMPKIN」等、世界を舞台に活躍する草間彌生の作品を鑑賞できたことに喜びを感じた。

特別展の奥にある常設展示室では「アートは生きる力 ～長寿の秘訣～」会期（令和6年4月2日（火）～9月23日（月・祝））が開催中である。今年は児童福祉の父、石井十次没後110年であることから、石井十次に関連する所蔵品が下記のように展示されている。

- | | | |
|----------------|-----|----------|
| 1 「石井十次肖像画 下絵」 | 素描 | （鱸 利彦） |
| 2 「石井十次肖像画」 | 油絵 | （鱸 利彦） |
| 3 「伯夷頌」 | 書 | （徳富 蘇峰） |
| 4 「裸婦」 | 水彩画 | （児島 虎次郎） |
| 5 「アイロンがけ」 | 油彩 | （児島 虎次郎） |
| 6 「方舟」 | 油彩 | （宮城 博範） |
| 14 「青織部台付板皿」 | 陶芸 | （児島 塊太郎） |

展示品は24作品

番号は展示番号

なお、弥勒 祐徳先生は令和6年5月16日に105歳で逝去された。最後まで描き続けた郷土画家の作品から、真に「アートは生きる力～長寿の秘訣～」を感じられた。

- 19 「桜まつり（西都原）」 油彩 （弥勒 祐徳）

どの所蔵品も素晴らしく、何度も会場を見て回り感動した。皆様、高鍋町美術館に是非ご来館下さい。

（編集委員 徳地 順子）